

AI 活用で挑む学問の革新と創成
2021 年度採択研究者

2021 年度 年次報告書

島田 裕平

東京大学 大学院医学系研究科
大学院生(専門職学位課程)

次世代 IoT・AI を用いた遠隔医療の法政策デザイン

§ 1. 研究成果の概要

今年度は1件の口頭発表「初診からのオンライン診療実施医療機関における保険診療上のオンライン診療料算定率の推定」(日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス 2022)を行った。

オンライン診療は病態が安定している場合に特にその有効性が発揮されるといわれることが多い。しかしながら、政府検討会資料によると実際に行われている診療は、新型コロナウイルス感染症流行下の咳や発熱などを対象にしているものも多い。この状況を説明する仮説として、その要件において、病態が安定する疾病に限定したり、事前の対面診療を求めている保険診療が忌避されているということが考えられる。この仮説を検証するため、本研究は新型コロナウイルス感染症流行下において時限的・特例的に認められている初診からのオンライン診療実施医療機関が保険診療上のオンライン診療料を算定するための届出をどの程度しているのかを明らかにした。各都道府県について、厚生労働省 HP 上のオンライン診療実施医療機関と保険医療機関届出を突合することで計算を行った。その結果、初診からオンライン診療を行うとして報告を行った医療機関のうち、17.06%がオンライン診療料を算定するための保険医療機関届出を行っていたことが分かった。これは初診からオンライン診療を行う医療機関の多くが、保険診療上のオンライン診療料を算定することがないことを示唆する。したがって、新型コロナウイルス感染症の流行下における時限的・特例的措置に従って初診から行われるオンライン診療においては保険診療が忌避されておりその結果として咳や発熱などの診療行為が多く行われている可能性が明らかとなった。限界として、データが標準化されていないことにより突合の精度が高くないことが挙げられる。